

女性パワーで政府交渉



7/24、県内の共産党女性議員（予定候補も）を中心に、政府交渉を行いました。紙とも子参議院議員と高橋ちづ子衆議院議員も交代で出席。医師不足、障がい者小規模作業所応益負担問題、全国一斉学力テスト問題、水道料金の負担軽減など多岐にわたって交渉しました。右端が神山悦子県議、その隣が紙とも子参議院議員。

水谷建設問題で公開質問状

県知事から

「答えようがない」の回答

8月3日、水谷建設「疑惑」にかかわって、佐藤知事に公開質問状を提出。
8月10日、知事より文書回答が届け、ほとんどは「答えようがない」としましたが、「04年知事の政治団体へのパーティー費用を寄付金としていた」との新事実も判明し、記者会見を行いました。



中田納涼工まつり



7/29、緑ヶ丘夏祭りに引き続き、中田商工会の納涼祭りに参加。各テーブルをまわり挨拶をしたり、握手を交わしたり、「来年の選挙は頑張れよ」と励まされ感謝！写真は中田自慢の「下荘よさこい踊り」のみなさん。

「脱脱却」、「脱理立て」で産廃公害ゼロを実現

カナダ・ノバスコシア州政府幹部との講演会

- とき：10月7日（土）午後1時30分
- ところ：三穂田ふれあいセンター
- 資料代：1人300円（主催：ゴク開港、産廃処分場建設に反対！いのちと健康を守る 電話0574-523-2020）

県医師会会長の
小山菊雄さんと懇談

8/11、小山会長は「国民協賛制度は守るべきであり、このまま医療制度改革をすすめていけば「自殺者」と「産婦率」が増えていくことになるだろうと指摘しました。

知的障がい者通所施設
「父の夢」訪問・懇談

8/10、福島市内にある社会福祉法人「父の夢」を高橋ちづ子参議院議員、宮本しずえ参議院議員らと共に訪問。古川副長さんに施設を案内していただき、懇談しました。

本場イタリアで声楽家の道を究め、いのちの大切さを歌に込めて

神山悦子が
おじゃま
します。

今回は



声楽家
重藤啓子 さん

オペラの本場
イタリアへ留学

北海道札幌生まれです。父がクラシック好きでいつも一流の音楽が流れていました。また、よく父の相伴で小さい頃から一般向けの演奏の他に生のコンサートやオペラを観に行っていました。自然に「耳」が本物を覚えてしまったようです。

郡女（高校）時代は合唱部に入り、顧問の楠川先生から「あなたも、声楽の道へ進んでみたら」といわれたことが、この道にすすむきっかけでした。

武蔵野音大に進学しましたが、「本場イタリアで勉強したい」との思いがますます募るばかり。88年（時）ロイヤル・インターナショナルの奨学金をもちイタリアへ留学しました。フィレンツェのルイーダ・ケルビーニ音楽院声楽科、同院室内楽（声楽）、マスタリーニを卒業。同大学助手を経て96年から03年までカルメン・コンボリ音楽院（インナー・ザ）声楽科で教鞭をとりました。そのかたわら、2000年に東京にてベルカント唱法研究会にも所属し、会を立ち上げ、宮城教育大などで講演しました。また、日本全国の小中学校や小中養護学校での演奏活動も続けています。

「言葉の力」が大切

イタリアは、人種差別をあまりしない国で、外国人の私にも溢れるような愛情で音楽を伝えてくれました。大切に育てて頂いたお陰で、現在では、伊・仏・独・英・スペイン・ラテン語で歌って表現できるようにになりました。私は特別な語学の早期教育は受けていません。ただ、両親が小さな頃から「本をよく読むこと」と「しっかりと挨拶すること」を続けてくれました。ありがたいことに、その頃に

重藤さんは、高校の後輩です。都立女学院から武蔵野音大、イタリアフィレンツェの音楽院に学び、さらにマスタリーニコースをそれぞれ修了して卒業。幅広いから現代まで5ヶ国語で歌っています。幅広いパートリーをこなします。現在東京で活躍中。
小柄なのに息を吸い込むと横顔が下がり、太鼓のようによく響く声です。さすがプロ、林奈子がそのまま素晴らしい。生声力はいくつも前向き、明るくてひまわりのような方です。（神山悦子）

聴いた言葉と力とコミュニケーションがイタリアが今の私の「メンション」になっているのです（笑）。
日本では、英語の早期教育が叫ばれていますが、私はむしろ日本語を子どもたちにつけたいと思います。ずっと大切でいいかと思えます。母国語で自分の意見を相手に伝える能力を身につけていない人が、どうして真の国際人になり得るのでしょうか。

「エリカ」公演で、

いのちと平和の大切さを

「エリカ」は、1994年第二次世界大戦中のドイツで、ユダヤ人強制収容所に向かう列車の中から、生後3ヶ月の赤ちゃんと車外に投げられ舟着的に救われるという実話を元にした物語で、ルイス・スパンダー・ジーさんの作品です。押田祐男さんが翻訳し、有勢博一さんの脚本、新井晴みさんが演じる一人芝居の劇中、私はヘアメイクで「カダッシュ」を歌っています。この歌はユダヤ人たちが死者を弔う時の歌です。昨年9月「黒いいのちの電話」の神山悦子参議院議員記念公演、今年9月2日福島県立大会で公演します。
「エリカ」を初めて読んだ時、エリカの生命を救うためのすまじい行動に鳥肌が立ちました。今、犠牲者を出すことのない豊かな中で、年間3万人以上の自殺者を出す日本。いのちを守るで軽視しているようなこの社会に、平和を守る力があるのでしょうか。
真の平和を築くために「生命の大切さ・尊厳」を、また「生命をないがしろにする戦争の惨い悲しみ」を、ほんの少しでも表現できたら幸せだなあと思っています。